

# レンズ交換式35mm レンズシャッターカメラの歴史

会員番号No.0810 竹内久彌

## レンズ交換式35mm

### レンズシャッターカメラとは？

今回、「レンズ交換式35mmレンズシャッターカメラ」という研究会発表テーマを頂戴したが、不十分な研究発表をさせていただく前に、その研究対象カメラから一眼レフおよびコンバージョンレンズ使用機や前群レンズ交換機のような部分的レンズ交換機は除外させていただいたこととお断りしておきたい。それらをすべて含めると、対象とすべきカメラの機種が余りにも多くなって、短時間の発表ではとても報告しきれないと考えたからである。

さて、カメラの発達の歴史を説いた解説は数多く出されているが、その中で「レンズ交換式35mmレンズシャッターカメラ」というジャンルを特定して述べているものにはほとんどお目にかかれない。過日、水川繁雄会員にご相談申し上げた際には「なにぶんマイナーな領域なのでこれまで考えてみたこともありませんでした」とのご返事を頂戴してしまっただけである。ところが、その後、馬淵 勇会員著の「クラシックカメラ」(勤草書房 1996年刊)のなかに「ブアマンズ・ライカ」という一章が設けられ、欧米にはブアマンズ・ライカ(貧者のライカ)という言葉があり、連動距離計と距離計に連動する交換レンズを備えながら値段の安い、「ライカもどき」の一群のカメラがあったことを紹介している。この、「安価なライカもどきのカメラ」とはなにあらうレンズ交換式レンズシャッターカメラのことであり、どうやら私はこのブアマンズ・ライカについて解説すればよいとすることでようやく腑に落ちた次第である。ただし、正しくブアマンズ・ライカとすると、レンジファインダーカメラに限ることになるが、ここではレンジファインダーの有無にはこだわらず、広くレンズ交換式に作られた35mmレンズシャッターカメラを取り上げることとした。

### 【沿革】

主としてMcKeownのプライスガイド(第12版)のなかで“interchangeable lens”と記載された35mmカメラを渉猟した結果では、最初に市販されたレンズ交換式レンズシャッター



写真1 Tenax II

カメラはツァイス・イコンのテナックス II (写真1)で、1938年のことであったようである。ただ、このカメラはツァイス・イコンが初めて出した35mmレンズシャッター機であり、コンタックスと同等のボディにドレーカイル式レンジファインダーを備え、交換レンズには広角の2.7cm Orthometar F4、標準にTessar 4.5cm F2.8とSonnar 4cm F2、望遠にSonnar 7.5cm F4を用意するなど、むしろ高級カメラを指向している、決してブアマンズ・ライカを狙ったものではない。ただ、これ以前に市販されたレンズ交換式35mmレンズシャッター機を見つけることができなかったので、Tenax IIをもってレンズ交換式35mmレンズシャッター機の嚆矢としたい。

次に現れたレンズ交換式35mmレンズシャッター機は1939年に米国のArgusから発売されたArgus C3(写真2)と思われる。ただ、このカメラは初めからレンズ交換式35mmレンズシャッター機として作られたものではなく、当初は引伸し機に使用するためにレンズを取り外し可能としたものらしい。後期型になってからアクセサリシューが付き、専用交換レンズが発売されて結果的にレンズ交換式35mmレンズシャッター機の第2号機となったものと考えられる。



写真2 Argus C3



写真3 Fama Flor II

### 【変遷】

第2次大戦後、中級35mmカメラは急速な発達と普及を見せるが、その経緯のなかでレンズ交換式35mmレンズシャッターカメラは大きな部分を占めることとなる。一眼レフを除くレンズ全群交換式レンズシャッターカメラは筆者の調べでは1938年の始まりから1961年の最終発売機まで23年間に65機種もが記載されている(表1)。これらはそれぞれが特徴を持つカメラたちであったが、ここでそのすべてを紹介することは到底不可能であるため、私が実機を所有してその特長を体験的に説明できる機種を用いて、レンズ全群交換式35mmレンズシャッターカメラの歴史的推移に基づいた解説を試みたい。

表1 レンズ交換式レンズシャッターカメラの歴史(カメラ名がゴシック体のは連動距離計機)

No.	発売年	カメラ名	メーカー名	No.	発売年	カメラ名	メーカー名		
1	1938	Tenax II	Zeiss Ikon	34	1957	Altix-n	Eho-Altissa		
2	1939	Argus C3	Argus	35		Altix-nb	Eho-Altissa		
3	1948	Akarette I	Apparate & Kamerabau	36	1958	Aires 35-V	アイレス写真機製作所		
4	1950	Futura	Futura	37		Olympus Ace	オリンパス光学工業		
5		Prominent	Voigtländer	38		Minolta A2-LT	千代田光学精工		
6		Finetta IVD	Finetta	39		Werra III	Carl Zeiss Jena		
7	1951	Finetta Super	Finetta	40		Werra IV	Carl Zeiss Jena		
8	1952	Futura-S	Futura	41		Retina IIIs	Kodak AG		
9		Diax Ia	Diax	42		Signet 80	Kodak		
10		Paxette II	Braun	43		Iloca Electric	Iloca		
11	1953	Akarex III	Apparate & Kamerabau	44		Prominent II	Voigtländer		
12		Lordmat	Leidorf	45		Paxette Automatic Super III	Braun		
13		Finetta 88	Finetta	46		Super Paxette IIBL	Braun		
14		Hanimar	Hanimex	47		Super Paxette III	Braun		
15		Topcon 35 (35A)	東京光学機械	48		Continental	Wittnauer		
16	1954	Diax IIa	Diax	49		Professional	Wittnauer		
17		Akarelle	Apparate & Kamerabau	50		Photavit 36 Automatic	Photavit-Werk		
18		Fama Flor II	Cornu	51		Regula IIIId Automatic	Regula		
19	1955	Topcon 35B	東京光学機械	52		Arette Bw	Apparate & Kamerabau		
20	1956	Ambi Silette	Agfa	53	1959	Kallo 140	興和光機		
21		Argus C forty-four	Argus	54			Graphic 35 Electric	Graphic Camera	
22		Diax Ib	Diax	55			Lordmat SE	Leidorf	
23		Lordmat C35	Leidorf	56			Lordmat SLE	Leidorf	
24		Photavit 36	Photavit-Werk	57			Automatic Unimark III	Leidorf	
25		Regula IIIc	Regula	58			Argus C33	Argus	
26		Regula IIIId	Regula	59			Arette W	Apparate & Kamerabau	
27		Super Colorette II	Braun	60		1960	Ricoh 999 (Anscormark M)	理研光学	
28		Super Colorette IIb	Braun	61				Agima	Agilux
29		Vitessa T	Voigtländer	62				AMC M235	Braun
30		Agimatic	Agilux	63				Baldamatic III	Balda-werk
31		Altix V	Eho-Altissa	64	1961	Oga Super-Matic	Obergassner		
32		Diax IIb	Diax	65			Werramatic	Carl Zeiss Jena	
33		Minolta Super A	千代田光学精工						

レンズ全群交換式35mmレンズシャッターカメラと言えば、その始まりからピハインド・ザ・レンズシャッターを採用したカメラと考えられると思うが、実は、この方式をとらないカメラが1種類だけ存在した。それは1954年にフランスのCornu社が出したFama Flor II (写真3)である。レンズとシャッターをセットにして交換する方式であり、一見大変無駄な方式のように思えるが、このカメラでは交換レンズが小型に設計されているためレンズとシャッターのユニットが下手な単体交換レンズ1本よりも小さい。ボディ内にある遮光板を下げることで撮影途中でのレンズ交換も可能であり、問題があるとすればファインダーが簡単なマス

ク方式で大変使い難いことであろう。実際に使用してみて、なぜこの方式が他で採用されなかったのか不思議なくらいである。戦後の第1号機として1948年に西ドイツのApparate & KamerabauからAkarelle Iが出されたが、このカメラはレンジファインダーを持たず、交換レンズに対応した2種類のファインダーを持つ簡易型プアマンズライカであった。このようにファインダーに工夫を見せたカメラとして、ここでは複数のファインダーを持つもののうち35mm、45～50mmおよび90mmの画角の3種類のファインダーを持つDiax社のDiax Ia(写真4)を示しておく。また、レンズとレンジファインダーをセットにして交換す

るというユニークな方式のAkarex III (写真5)が出されているが、その後この方式を追従するものはなかった。

もっとも一般的なファインダー形式はバルナックライカでお馴染みのもので、標準レンズに対応するファインダーを1個持ち、交換レンズを使用するときは専用ファインダーもしくはユニヴァーサルファインダーをアクセサリシューに付けて用いる方法が取られる。この方式は大戦直後の1950年に発売されたProminent (写真6)にその典型を見ることができる。Voigtländer社という会社は戦後遂にフォーカスプレーンシャッター機に手を出さず、シンクロ撮影に利点のあるレンズシャッター(シンクロ・コンパー)を採用して、明らかにライカに対抗できる35mmレンジファインダー機を作った。交換レンズにNokton F1.5/50mmという最高級、最大口径のレンズを持ち、ほかに50mm 2本、35mm 1本、100mm 2本、150mm 1本と合計7本のラインアップを出している。そのなかのTeromar F5.5/100mm(写真7)はヴィンフレックスのようなミラーボックスに付けられていて、コントロールファインダーとしても使えるなど、ほかに類似品の見られない独特なものではあったが実用的には成功作ではなかった。また、大変使いやすい外付けファインダー(Turnit)も用意され、複写専用レンズや特殊撮影用機材も多くあって、レンズシャッター機でありながら充実したシステムカメラとなっている。

レンズ全群交換式35mmレンズシャッターカ



写真4 Diax Ia



写真5 Akarex III



写真7 Teromar F5.5/100mmを付けたProminent



写真6 Prominent、交換レンズ左からDynaron F4.5/100mm  
Nokton F1.5/50mm Skoparon F3.5/35mm

メラの新製品発売は1956年に一つのピークが見られ、13機種が発売されているが、レンズ交換機として特筆すべきはこの年のカメラからブライトフレームファインダーの採用が始まったことである。AgfaのAmbi Silette(写真8)とLeidorfのLordmat C35であり、このあとブライトフレームファインダーがレンズ交換機に必須の機構となったことは、新製品発売の次のピークである1958年発売の17機種中の16機種がブライトフレームまたはマルチフレームファインダーを備えていたことでわかる。

発売機種数の第3の山の中に見えるWerra IIIとIV(写真9)は東ドイツのカール・ツァイス・イェナ製で、他の大勢を占めるドイツ製とは一線を画した面白いカメラである。レンズ交換はシンクロンパーにスピゴットマウントを用いたありふれたものであったが、レンズ基部を回すフィルム巻上げ機構、外側にビスが1本も見えない作りや黄金分割にもとづく外形デザインなど、きわめてユニークなカメラである。当時、西独や日本、米国のレンズ交換型35mmレンズシャッター機が重厚かつ豪華を指向していたところに、軽快でスマートなカメラを出した東独の方向性が興味深い。

日本製のレンズ全群交換式35mmレンズシャッターカメラとしては、望遠と標準の2本しか持たないTopcon 35が1953年に日本で初めて発売された。1957年に至ってようやく広

角1本、標準3本、望遠3本の合計7本の交換レンズを揃えたMinolta Super Aが現れて世界レベルとなった。58年にはAires 35-V、Olympus Ace、Minolta A2-LTが出された。とくに、Aires 35-V(写真10)は、交換レンズに F3.2/3.5cm、F1.5/4.5cm、F1.8/4.5cm、F3.5/10cmと大口径のレンズを揃え、さらに単独露出計を内蔵した意欲的カメラであったが商業的には不成功だったという。この翌年、レンズ全群交換式35mmレンズシャッターカメラではもっとも大口径のProminar F1.4/50mmという標準レンズを付けたKallo 140が興和光機から発売された。日本製のレンズ全群交換式35mmレンズシャッターカメラの最後を飾ったのは理研光学のRicoh 999(1960年発売)であるが、Anscomark Mという名で、米国で先行発売されたという。

【終焉】

世界的にみると、レンズ全群交換式35mmレンズシャッターカメラの生産の主流は当初からドイツにあって、機種数で50機種が作られている。次が日本の8機種、アメリカ4機種、イギリス2機種、フランス1機種の合計65機種が出されたことになっている。良く知られているように、35mmカメラはこのあと一眼レフと自動露出の2方向に急速に舵をきることになり、その結果としてカメラ産業の主流はドイツから日



写真8 Ambi Silette

本へと移行した。1962年以降にレンズ交換式35mmレンズシャッターカメラの新規発売は見られない。少し大げさな言い方になるかも知れないが、レンズ交換式35mmレンズシャッターカメラは栄光あるドイツカメラの掉尾を飾るカメラとなったように思われる。



写真9 Werra IV



写真10 Aires 35-Vとその交換レンズ群  
左からTele Coral F3.5/10cm、Coral F1.8/4.5cm、Coral F1.5/4.5cm、Coral F3.2/3.5cm